

電解水(次亜塩素酸水)

<次亜塩素酸水の市場>

次亜塩素酸水の紛い物が横行している。市販品の多くは次亜塩素酸水の基準を満たしていない。

次亜塩素酸ナトリウムに希塩酸を混合しただけの水溶液や次亜塩素酸カルシウムを次亜塩素酸水と称して販売されているといった状態で(財)日本電解水協会、機能水研究振興財団、微酸性電解水協議会からもその安全性が注意喚起されています。

製造方法がそもそも次亜塩素酸水の規定から外れている混合方式の場合はpHだけを次亜塩素酸水の基準に合わせていますが消毒効果が低いために塩素成分を多くしなければなりません。200ppm、或いはそれ以上の高濃度にするのはそのためです。

それは塩素ガス発生の危険性あり！ということです。

また、厚労省の定める食品添加物としては該当しないということでもあります。

この混合された次亜塩素酸水と称しているモノは、厚労省が認める食添の電解水、次亜塩素酸水とは似て非なるものです。

<厚労省食添認可の殺菌料電解水、次亜塩素酸水とは>

- 次亜塩素酸水として認められるものは電気分解装置から作られるものだけです。
- 有効塩素濃度も10～80ppmと定められております。
- その基準内でなければ食品添加物殺菌料とは認可されません。

微酸性次亜塩素酸水 pH:5.0～6.5 有効塩素濃度:10～80ppm

弱酸性次亜塩素酸水 pH:2.7～5.0 有効塩素濃度:10～60ppm

強酸性次亜塩素酸水 pH:2.7以下 有効塩素濃度:20～60ppm

正規の次亜塩素酸水は有効塩素濃度が低いので塩素臭、金属腐食性、漂白性が低く使い易い殺菌料となっております。

次亜塩素酸(HClO)成分が多くを占めているので塩素濃度が低くても殺菌効果が大。

(ただし、食添品であっても医薬品の認定は受けていないものだけということだけは忘れずに！)

新型コロナウイルスが猛威を振るう中であまりにもいい加減なモノが出回ってしまいました。

ご注意下さい！本物かどうかです！さらに使い方です！ここを誤っては意味がありません。